

HopStepJump

<http://toyono-jinjikyoo.com/>

③

人権について考える①

— 学級づくりと自尊感情 —

☆人権教育のすすめ あーよかったな あなたがいて ～「優しさ」という温かい貯金～☆

第2回初任者研修・新規採用者研修は、西宮市で教員・指導主事をされ現在「元気塾プラス」代表の仲島正教先生に来ていただきました。講義では子どもや保護者の心に寄り添う数々のエピソードと共に、仲島先生のこれまでの実践を人権教育と結びつけ話してくださいました。

子どもに関わる際に、大切なことをたくさん知ることができました。出会いからつながりを広げていく中で、子どもの興味をひきつける言葉や行動、そして一人ひとりへの優しさが重要なのだと感じました。些細な言葉掛けや、一人ひとりの子どもをよく見ること、少しの優しさの積み重ねで、相手の心を動かすことが可能であるのだと気づかされました。人と人の温かなつながりを広げていくことが、人権を考える上でとても大切なのだと思いました。

自分の児童の接し方は果たして本当に合っているのか、始業式が始まってから2週間ずっと疑問を抱いていました。今日の仲島先生のお話の中には、たった今自分が直面している悩みに関わる内容についても話していただき、解決への道が少し見えた気がします。印象強かったのは、「優」という漢字。憂いに寄り添える仲間づくり、学級づくり、自身が憂いに寄り添える教師になろうと感じた。今まで学んできた「人権」とは一味違う講義ですごく学びになりました。

若いからこそできることもあるということに気づくことができました。子どもたちと遊びながら、一緒に成長できる先生になりたいと思いました。また子ども、保護者、先生方とのつながりを大切にしながら、日頃から人権を大切にできる教員になりたいと思いました。

初任で分からないことが多く、学級を上手くまわすことばかり考えてしまっていました。講義を聞いて、人と人との結びつきを意識した活動や自分の言葉がけが必要だと感じました。その積み重ねが子どもたちの人権感覚を養うことにつながると感じました。

人権教育という言葉だけで、すごく難しいイメージがありました。“あの子の目を輝かせたい”と思ってはいるものの、いつも叱ってばかりだったと反省しました。「あなたは大切なんだよ。」「クラスに欠かせない一人なんだよ。」という思いが、いつしか頭の隅にいき、クラスの雰囲気や乱している子として見てしまっていました。今日の講義で、笑顔の大切さ、一人を大切に想い、その想いを伝えていくことの大切さを改めて感じ、目まぐるしい日々の中、ふりかえりができてよかったです。

本格的に授業や家庭訪問が始まる中で、子どもたちの課題が少しずつ見えてきていると思います。仲島先生から“しんどい子は、しんどい思いを抱えている子、子どもの背景は、見ようとしないと見えてはきません。”というお話がありました。その子への先生の見方が学級全体の見方になるぐらい、学級の子どものたちは先生のまなざしをよく感じています。子どもたちの言動に対して、「何してんの！あかん！」ではなく、「どうしたん？なんかあった？」というメッセージを届けよう意識するだけで、学級の雰囲気も変わってくると思います。

自分から行動することが大事だと感じました。事務という職業柄、子どもとの距離感に悩んでいましたが、少しずつ自分から声をかけていこうと思いました。今は目の前の事務に手いっぱいですが、周りに目を向けるよう意識していきます。事務の立場からも実践したいと思うことがたくさんありました。

人と人とが交流すると、その中でぶつかり合いが起きてしまい、それを怖れてできないままという姿を、今まで見てきました。今日の研修は、その先に人と人とが交流を深めていくことで、初めてぬくもりが生まれるのではないかと感じる内容でした。今、実際に目の前にいる子どもたちの姿を想像しながらお話を聞かせていただき、明日すぐ、「こんな声をかけたい。」と考えることができました。優しい人を育てるために優しい人であることを大切に努力していきたいと思います。

最後に、明日へのエネルギーとなる「はじめからうまくはいかん。苦しいときは、助けてもらう。」という温かなエールを届けてくださいました。“話を聞いている間、ずっとクラスの「あの子」が頭に浮かびました。明日からとにかく実践したいです。”これは、ある先生の振り返りシートの一文です。この一文から子どもへの思いと熱意が伝わります。講義を通して、子どもたちの自尊感情を高めるためにできることや学級づくりで大切にしたいことを学ぶだけでなく、汗びっしょりになり、熱く語りきる仲島先生の姿から“先生”という職業について見つめ直し、新たな気持ちをもたれた先生も多かったです。